

主体性を育成する避難訓練とは

【アブストラクト】

本研究は、防災教育の一環として行われる避難訓練について、生徒の主体性が見られないことに注目した。実際に災害が起こったとき、必要となるのは生徒が自ら考え行動する力だと考える。本校の避難訓練の撮影や生徒のアンケートを基に、緊迫感のない避難訓練であることが課題として挙げられた。緊迫感のある内容を考えるのは難しかったが、避難訓練の考案と実施を繰り返しながら、生徒が主体的に行動できるような状況を作ることが主体性を育成する避難訓練に繋がると考えた。

キーワード:避難訓練、主体性、緊迫感

【本文】

I. はじめに

現在、日本では13年前に起こった東日本大震災や今年1月に起こった能登半島地震を始め、多くの大規模な震災に見舞われている。そこで学校の防災教育として取り組まれているのが、教科教育や特別活動の一貫としての防災教育、「避難訓練」である。

文部科学省ホームページより、現在の防災教育の現状としては、学校の教職員の努力によりあらゆる教科や活動を通じた横断的・体系的な防災教育の実施、各学校やその地域等の特徴を生かした取組事例が見られるとされている。一方で、現在の防災教育における課題として主に3つのことが挙げられている。まず、防災教育の必要性について気付いていない人がいることとその必要性に対する意識があまり高くないことである。2つ目は、防災教育の内容について、地域の防災教育の在り方の分析が十分に行われておらず、防災教育の体系化ができていないことである。そして、防災教育の方法について、災害時の現場の様子や教訓に加え、科学的な知識、助け合う心など、それに対してできること・できないことを踏まえた上で、何を伝え、学ばせるべきか等が明確になっておらず、不十分であるという点である。ここから、現在の学校での防災教育では、防災教育の必要性を感じている人が少なく、防災教育の体系化がなされていないことが読み取れる。

確かに、私達の学校で毎年年に2回ほど行われている避難訓練をみても教員主体の避難訓練になっており、真剣に取り組む生徒もあまり見受けられないと感じる。それは、生徒は教えられることのみならず、自分で能動的に学習することが必要であるが、そのような取り組みへの支援が不足していることだと考えた。上記に添付した新聞の内容からも、生徒自らが考えて迅速に対応することが求められていることがわかるように、実際に災害が起きたときに率先して行動するためには生徒の「主体性」が必要である。そこで、私達は現在の防災教育の課題を解決するため、「主体性を育成する避難訓練」についての探究と避難訓練案の提案をしていきたい。また、ここでの「主体性」とは『何をすべきか決められていないこと』に対し、周囲の意見や第三者からの指示に頼らず、自分の意思や判断に基づき、責任ある行動することとする。

II. 研究方法

「主体性を育成する避難訓練」について考案する上で、私達は、上記で挙げた防災教育における課題をもとに、本校の生徒を中心に避難訓練に対しての意識調査を行った。そこから、本校の防災教育における課題を導き出し、訓練案の提案・実施、事後アンケートなどを行い、より主体性を育成できるような避難訓練案を考える。(表1)

表1 研究方法の一覧表

年度	月	研究方法	詳細
令和4年度	2	防災に関する意識調査	宮城県内の高校生に対して避難訓練や防災に関する意識調査を行う
令和5年度	6	前期避難訓練撮影	今まで本校で行われてきた避難訓練の様子を廊下や教室にiPadを設置して撮影する
		前期避難訓練考察	撮影した避難訓練の様子から、本校の避難訓練の課題を分析する
	8~10	後期避難訓練企画	前期避難訓練で課題として挙げたことを改善するために、防災主任の先生と話し合いを重ね、避難訓練案を提案する
	10~11	避難訓練事前指導動画作成	防災教育の基本的な知識や避難訓練時の注意事項を動画にまとめる
	11	避難訓練事前指導動画公開	まとめた動画を避難訓練前にクラスルームにアップロードする
		後期避難訓練実施・撮影	前期避難訓練と同様に避難訓練の様子を廊下や教室にiPadを設置して撮影する
		事後アンケート実施	後期避難訓練の振り返りとして全校生徒を対象にアンケートをとる
	12~3	後期避難訓練結果分析・考察	撮影した避難訓練の様子と事後アンケートから、私達が提案した避難訓練の改善点や課題を分析する
令和6年度	4~6	前期避難訓練企画	前年度の後期避難訓練の反省を生かし、新たに避難訓練案を防災主任の先生に提案する
		避難訓練事前指導動画改訂版作成	前回の避難訓練事前指導の内容からさらにわかりやすく、より多くの知識を動画にまとめる
	6	避難訓練事前指導動画改訂版公開	前回と同様にまとめた動画を避難訓練前にクラスルームにアップロードする
		前期避難訓練実施・撮影	後期避難訓練と同様に避難訓練の様子を廊下や教室にiPadを設置して撮影する
		事後アンケート実施	後期避難訓練と同様に、前期避難訓練の振り返りとして全校生徒を対象にアンケートをとる

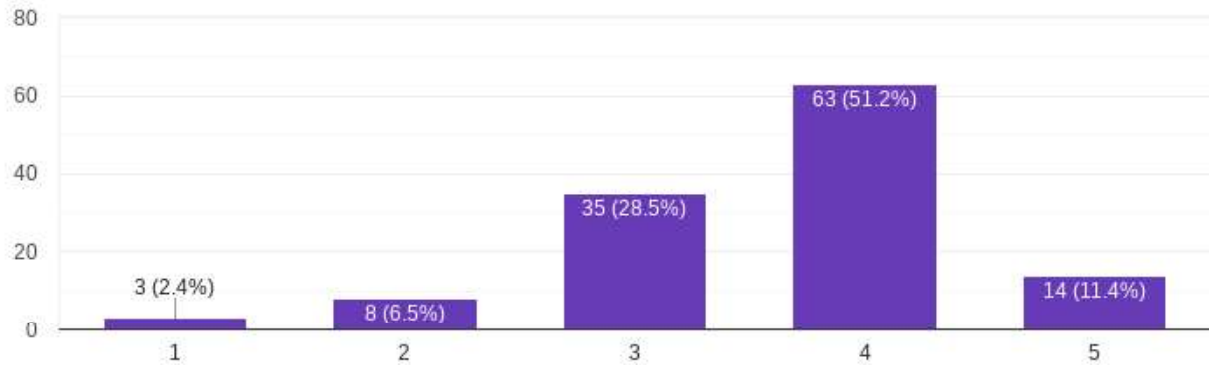
		前期避難訓練結果分析・考察	撮影した避難訓練の様子と事後アンケートから、私達が提案した避難訓練の改善点や課題を分析し、最終的な避難訓練案を提案する
--	--	---------------	---

Ⅲ. 探究内容

(i) 令和4年度防災に関する意識調査について

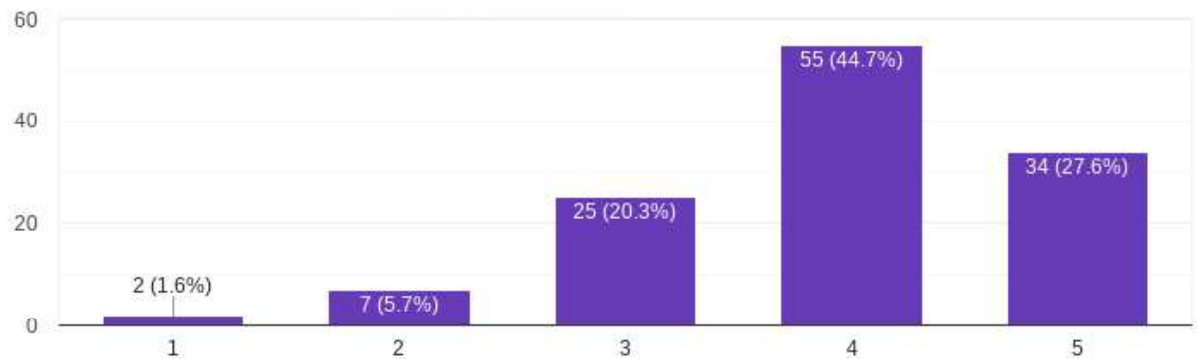
① 現在の避難訓練に対する意識について(グラフ1・グラフ2)

123件の回答



グラフ1 避難訓練にどれくらい意欲的に取り組んでいるか

123件の回答

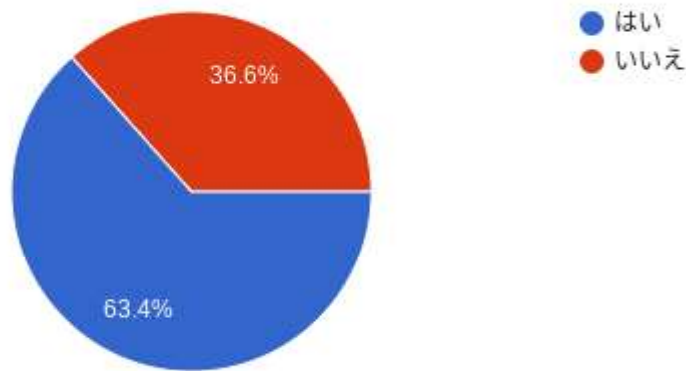


グラフ2 避難訓練にどれくらい真面目に取り組んでいるか

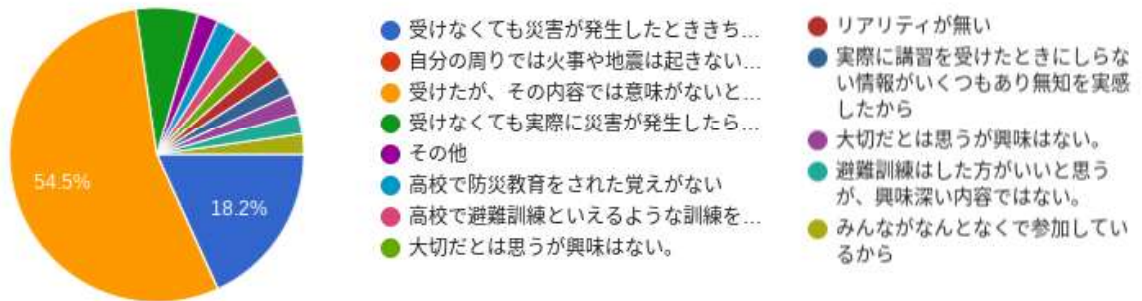
宮城県内の高校生に上記のように、1～5の5段階でアンケートを行ったところ(5が最も取り組んでいる)、どちらのアンケート結果も4が一番多い結果となった。これは、意欲的・真面目に取り組んでいる生徒が比較的多いと読み取ることができるが、全生徒に共通していえることは避難訓練に、完全に受け身であるということである。実際に災害が起こったとき、素早く避難することができないと考えられる。

② 避難訓練の内容と必要性について(グラフ3・グラフ4・グラフ5・グラフ6)

123 件の回答



グラフ3 学校での防災教育は興味深い内容か

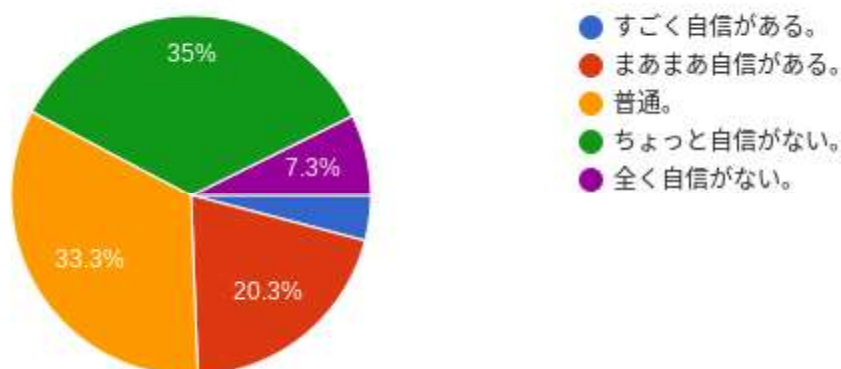


グラフ4 学校での防災教育がなぜ興味深い内容ではないと考えるか
(グラフ3のアンケートで「いいえ」と回答した人のみ)

123 件の回答



グラフ5 学校で避難訓練をすることは必要だと思うか



グラフ6 実際に災害が起きたとき、災害の種類によって適切な避難経路を使って避難できる自信はあるか

まず、学校での避難訓練の内容に必要な性についてグラフ5からわかるように、およそ98%の人が必要性を理解しているのに対して、グラフ3からわかるように、学校での防災教育に興味深いと感じている生徒は63%と少なくなっている。学校での防災教育に興味深くないと感じる生徒にその理由について、グラフ4から「受けたが、その内容では意味がないと感じたから」と回答する生徒が半数以上を占めていることがわかる。また、この理由の次に「受けなくても災害が発生したとききちんと避難できる」と回答が多かったが、グラフ6のアンケート結果より、災害への知識を多くの人が身につけておらず、7割以上の方が適切な避難経路で避難できる自信がないとされていることがわかる。私達はこのアンケート結果から、防災に関する正しい知識を身につけることと、生徒が主体になり意欲的に避難訓練を行うことができるような避難訓練案を考案していく必要があると考える。

(ii) 令和5年度前期避難訓練について

① 令和5年度前期避難訓練の内容・調査(図1)

全校生徒一斉に授業を1時間分使って避難訓練を行う。(雨天のためシェイクアウト訓練)

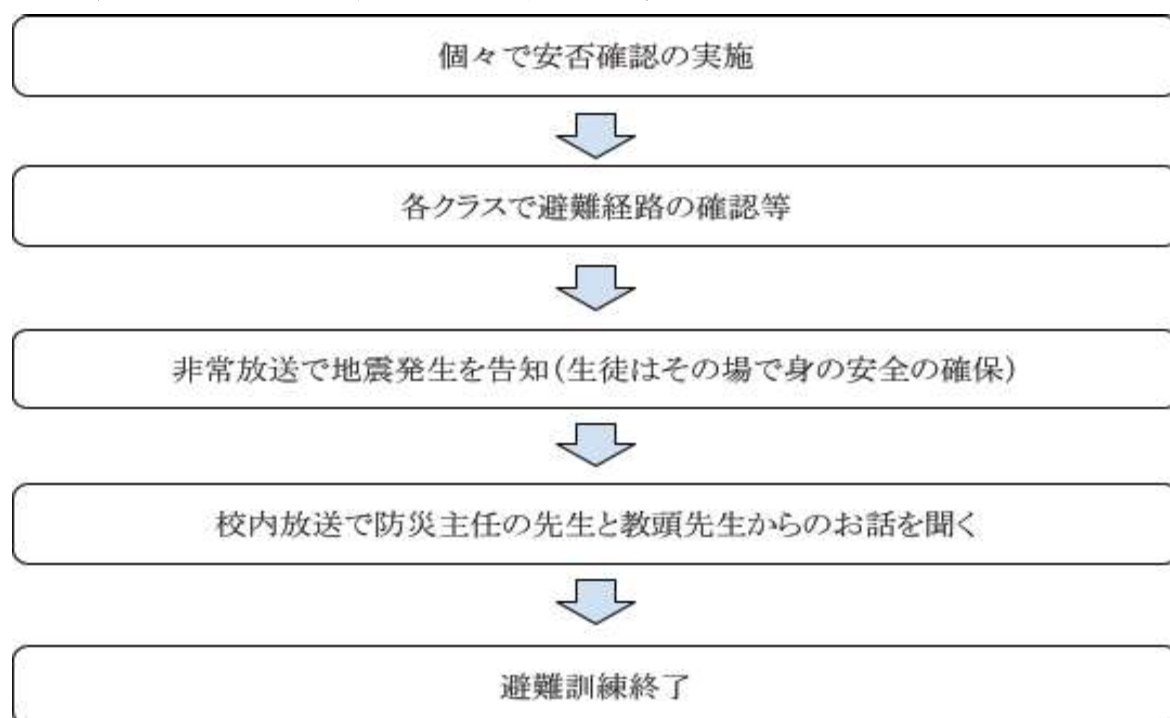


図1 令和5年度前期避難訓練の流れ

令和5年度の前期避難訓練では、本校でどのような避難訓練が行われているのかを分析するために、それぞれの学年で4クラスずつ合計12台のiPadを教室に設置し、実際に各クラスで生徒の様子を撮影した。

②令和5年度前期避難訓練の分析

撮影したクラスの動画を分析したところ、令和5年度の前期避難訓練として良かった点として挙げられるものは特になかった。

主な反省点として挙げられたのは、教師が事前に地震発生想定時刻や訓練内容を生徒に通知していることや非常放送の警報音が小さいなど、緊張感や緊迫感のある避難訓練になっていないことである。これでは実際災害が起こった場合に落ち着いて対応することができない。また、避難訓練中に笑い声や話し声が絶え間なく聞こえてきたり、机の下で身の安全を確保しているときにスマホを操作している生徒が見受けられた。机の下で身の安全を確保するときに、机の脚を掴んでいない人や正しく掴んでいない人も見受けられたため、避難の際の正しい知識を広めていくとともに、緊迫感や意欲的な姿勢が見られるような避難訓練を考案していく必要がある。

(iii)事前指導動画の制作について

上記の意識調査や前期避難訓練の分析からもわかるように、防災に対する知識が不足していると感じたため、学校防災マニュアルなどをもとに後期避難訓練の前に正しい避難の行動をまとめたものを7分ほどの動画として制作した。休み時間に地震が発生したときの行動として、自分の席ではなく近くの席に戻ることと、避難経路の確保のために教室の出入り口を開けることを実演を交えて説明したり、身を守るために机の中でとる姿勢として正しいものをクイズ形式で知ってもらおうとしたりした。また、制作した動画を後期避難訓練の前にクラスルームにアップロードすることで、動画によって防災の知識を身につけ、その後の後期避難訓練で実践できるようにした。しかし、あまり動画の再生数は伸びず、避難訓練当日までに全校生徒が避難訓練の正しい知識を身につけていたかどうかわからないということが課題として残った。

(iv)令和5年度後期避難訓練について

①後期避難訓練の企画

前期避難訓練を踏まえて、上記した避難訓練の前に事前指導動画を制作すると同時に、前期避難訓練の課題として挙げた緊迫感を得られるような避難訓練を企画する。まず、後期避難訓練をいつの時間帯に行うかという話し合いでは、緊迫感を出すために今まで本校では実施したことがないとされる授業時間外での避難訓練が案として出ている。しかし、放課後や部活動の時間帯では全員が避難訓練に参加することや点呼で誰がいるのかどうかかわからず避難訓練が成り立たないという指摘があり、普段7時間目に行っている避難訓練を前倒して授業5分前の休み時間中から開始することとなった。次に、前期避難訓練での反省点である、教師が生徒に避難訓練前に地震発生時刻を通知することに関して、担任の先生から当日いつ行うかを通知しないようお願いした。さらに、これまでの避難訓練に追加して、避難経路が通りづらい時の生徒の行動を確認するために、割れた窓ガラスに見せかけたペットボトルの破片を用意し校舎東側の階段に散布できる準備をする(資料1)。そして、前期避難訓練の内容に加え、避難訓練後に事後アンケートを行うため、Googleフォームを作成する。また、2学年の生徒2人に松葉杖を使った避難を依頼し、そのクラスの生徒の行動を確認する。この他に加えて、クラスで1題のお題を課し、それを達成しながら避難訓練を行うことや電子機器(放送機器)の故障を想定した避難訓練の案もあった。しかし、避難訓練開始から避難訓練の振り返りまでを全て一時間で行わなくてはならず、時間が不足するため断念する結果となった。



資料1 割れた窓ガラスに見せかけたペットボトルの散布場所(令和5年度後期避難訓練)

②後期避難訓練の実施・撮影(図2)

全校生徒一斉に授業を1時間分使って避難訓練を行う。(当初の予定では駐車場が避難場所とされていたが、雨天のため体育館への避難となった)

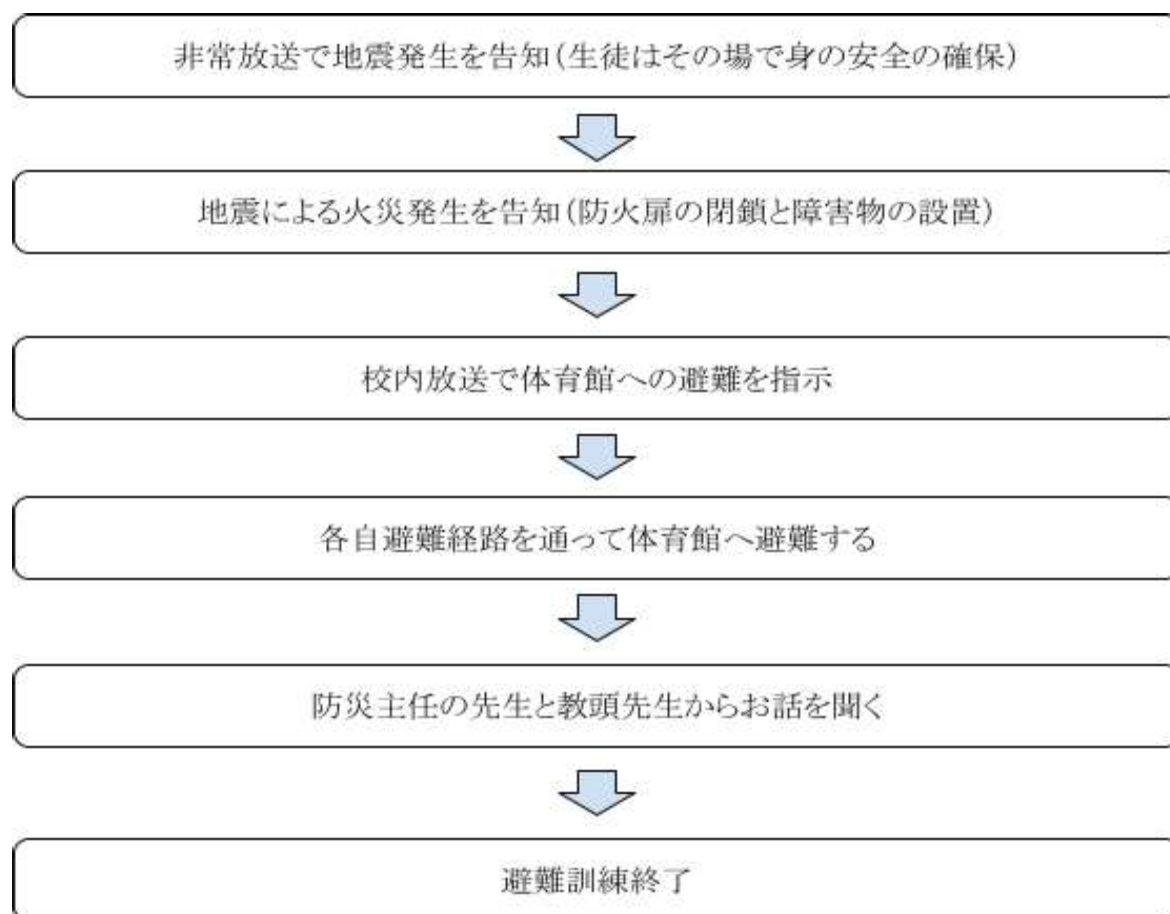
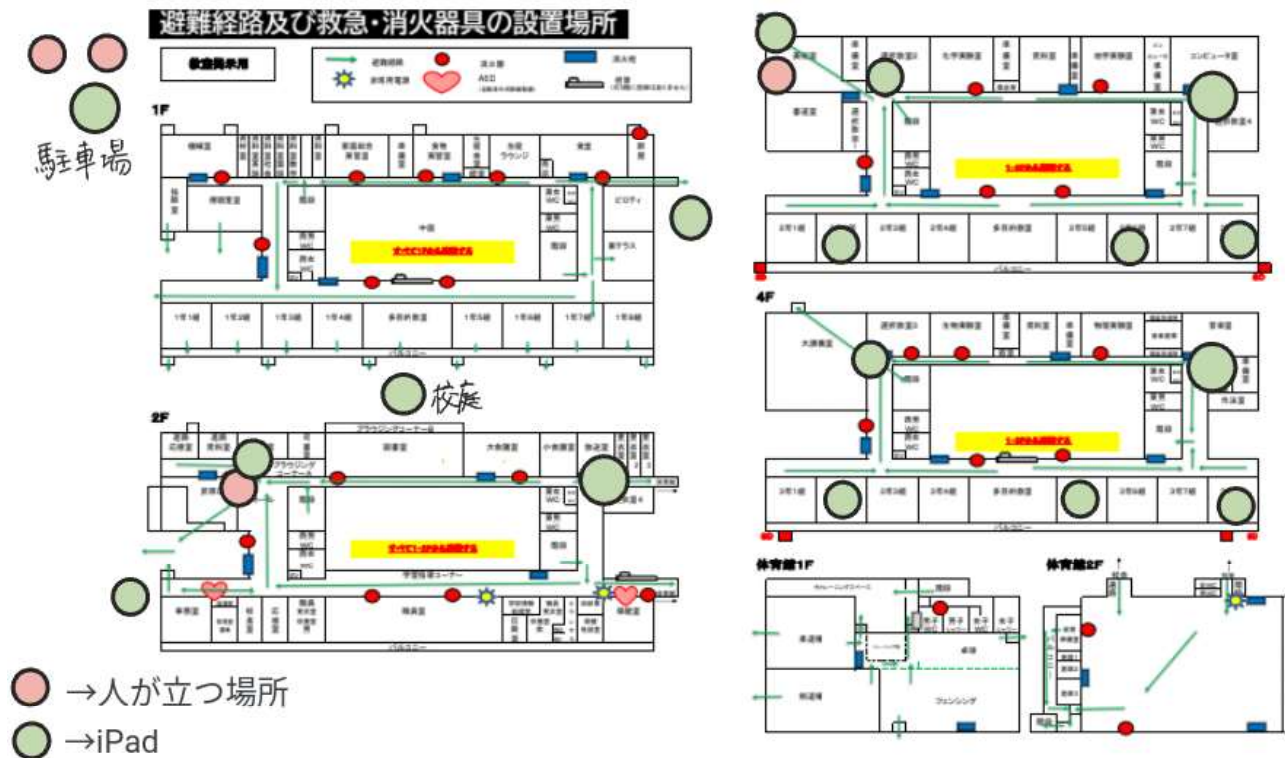


図2 令和5年度後期避難訓練の流れ

前期避難訓練との違いを調査するため、2学年と3学年のそれぞれにiPadを3台ずつ、その他避難場所や廊下などに11台、合計17台を設置して撮影を行う(資料2)。



資料2 iPadの設置場所

③後期避難訓練の結果分析・考察

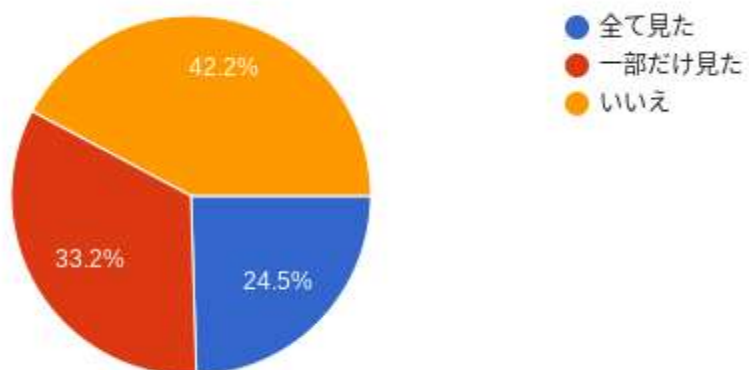
最初に良かった点として、今回の避難訓練の様子から、数名だが正しく机の中に潜っている人や避難時に口を覆っている人が見受けられた。また、全体的に体育館に速やかに行動することができていたと感じられる。

避難訓練の運営についての改善点として挙げられたのは、非常放送の音が小さくて聞き取りづらいことで、緊迫感のある避難訓練を実施することができていないということだった。また、あるクラスではいつ避難訓練が行われるかを知っている生徒がいたことも緊迫感のない避難訓練になってしまったと考えられる。そして、生徒の避難訓練の様子では、机の中での安全確保でも避難中でも話し声や笑い声が絶えなかったということがほとんどのクラスや廊下で見られた反省点といえる。また、探究44班が今回の避難訓練で新たに考案し取り入れた防火扉の閉鎖や障害物の設置の結果として、通常の避難訓練では見かけないものを前にふざけてしまう人がいたり、防火扉の正しい開け方がわからず、間違った避難経路を通る人が見受けられた。

④後期避難訓練の事後アンケートの実施

後期避難訓練の振り返りとして全校生徒を対象にGoogleフォームで後期避難訓練のアンケートをとった。全校生徒のクラスルームにリンクを貼って担任の先生からも入力を促していただいたことで計734件の回答を得ることができた。(グラフ7~16)

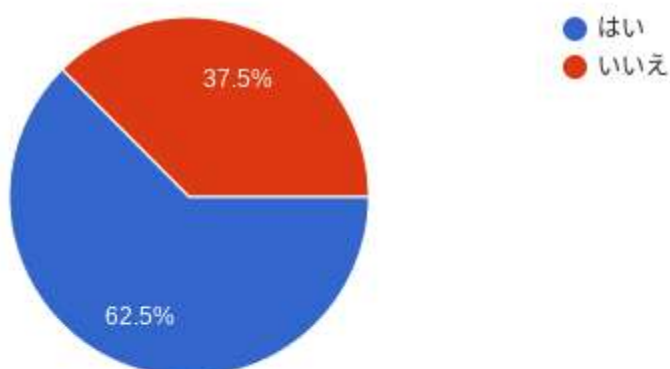
734 件の回答



グラフ7 クラスルームに投稿された事前指導動画を確認したか(令和5年度後期避難訓練)

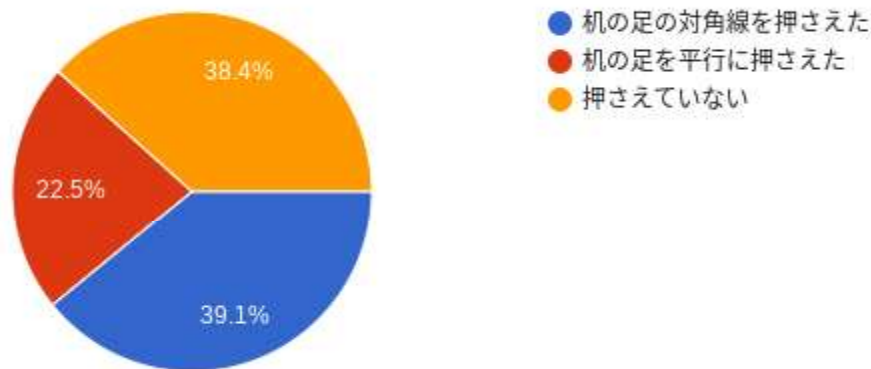
まず、(iii)で記した事前指導動画について、避難訓練が始まる前に全て動画を視聴し防災知識を確認した人は33%しかおらず、一部しか見ていない人を合わせても6割に満たなかった。これでは、今回の避難訓練で学んだ知識を実践することが難しいと考えられる。動画の視聴数が伸びなかった原因として2つのことが考えられる。1つ目は、全校生徒のクラスルームに動画をアップロードするのが避難訓練の直前になってしまい、生徒が視聴する時間が限られていた。2つ目は、事前指導動画の視聴のお願いをクラスルーム上でしか行っておらず、そもそも動画の存在を知らなかった人が多かったということである。この2つの問題を解決するためにも次の前期避難訓練で事前指導動画を制作する際は、余裕を持っての作成と、各クラスで事前指導動画の視聴を促すような呼びかけが必要だと考える。(グラフ7)

654 件の回答



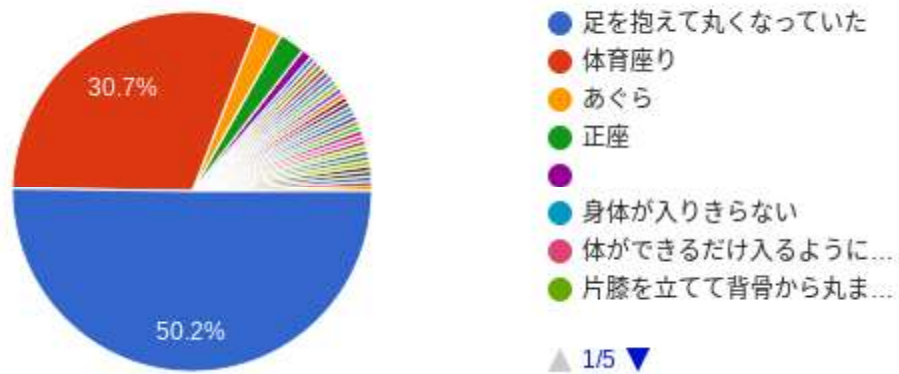
グラフ8 地震発生の非常放送を聞いて机の下に潜ったか

409 件の回答



グラフ9 机の足を押さえたか(グラフ8の質問に「はい」と回答した人のみ、令和5年度後期避難訓練)

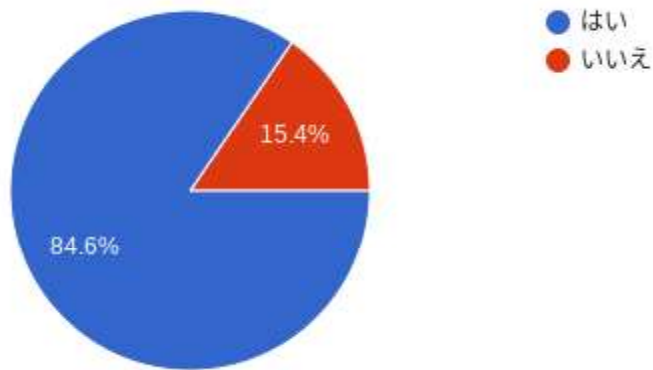
215 件の回答



グラフ10 机の下でどのような姿勢でいたか(グラフ9の質問で「押さえていない」と回答した人のみ)

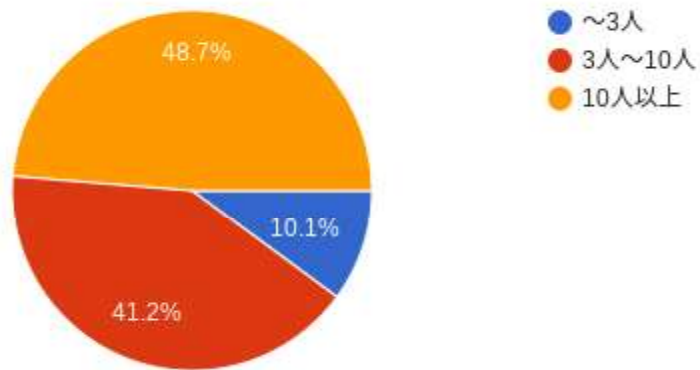
次に、非常放送があった際の身の安全の確保についてのアンケート結果を見てみると、机の下に潜ったのは6割以上の人が行っているのに対し(グラフ8)、机の足を正しく掴んでいる人はその中で4割の人しかいないことが読み取れる(グラフ9)。これは事前指導動画の中の内容にもある防災知識であるのにもかかわらず、多くの生徒がこの防災知識を理解していないことが伺える。グラフ10であるように、机の足を押さえずに「足を抱えて丸くなっていた」生徒や「体育座り」をしていた生徒が大多数を占めていることがわかるが(グラフ10)、これらの姿勢は正しいとは言えず、生徒自身の身の安全を確保することはできない。事前指導動画も含め様々な形で自分の身を安全に守るために防災知識を広める必要がある。

409 件の回答



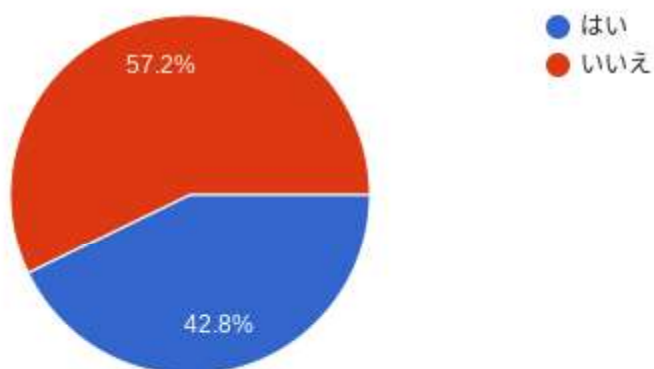
グラフ11 机に潜った後、クラス内で私語があったか

347 件の回答



グラフ12 どのくらいの人が話していたか(グラフ11の質問で「はい」と回答した人のみ)

409 件の回答

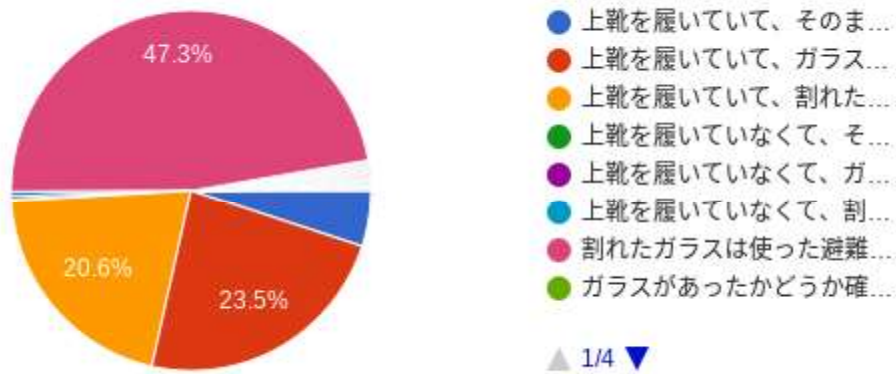


グラフ13 机の下に潜ってから自分自身は私語があったか

この3つのグラフから、わかるように全校生徒を見て、私語が多いことが読み取ることが

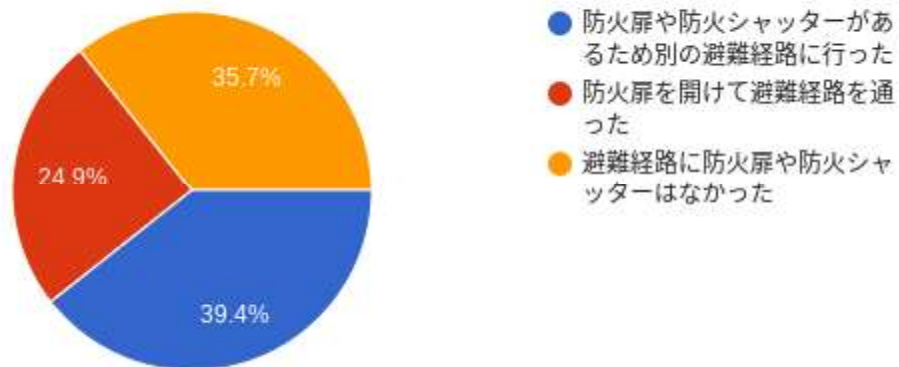
できる。避難訓練をしている中で、8割以上の人が私語があると認識していて(グラフ11・グラフ12)、さらに4割の人が自分自身の私語があったと振り返っていることがわかる(グラフ13)。実際に地震があったときに備えて真面目に避難訓練に取り組む姿勢は、これからの避難訓練の改善すべき点であると考えられる。

695 件の回答



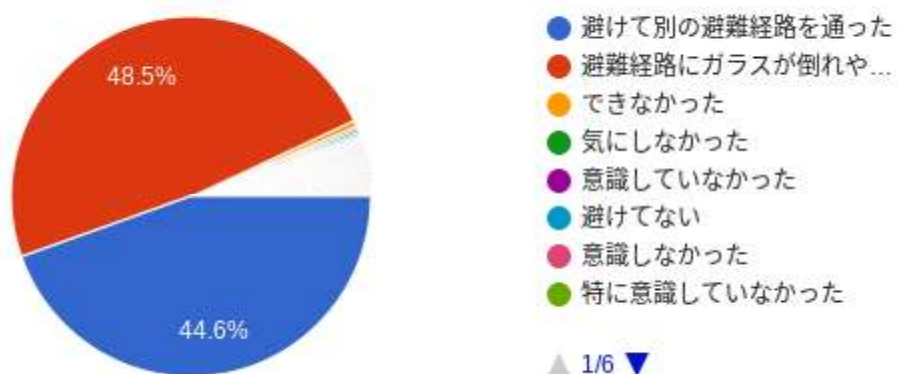
グラフ14 割れたガラスがある場所を通るとき、どのように対応したか(令和5年度後期避難訓練)

734 件の回答



グラフ15 防火扉や防火シャッターに対応し、より適切な避難経路を選択することができたか

734 件の回答



グラフ16 避難中、倒れやすいものをできる限り避けて避難することができたか

割れたガラスに見せかけたペットボトルの欠片を廊下に撒いたが、散布する場所が少なかったため、「割れたガラスは使った避難経路になかった」という回答が最も多い結果となってしまった。しかし、「上靴を履いていて、ガラスが飛び散っているところを避けて通った」や「上靴を履いていて割れたガラスがない別の通路を使った」という回答もあり、多くの生徒が安全に避難経路を通っていたことが読み取れる(グラフ14)。また、防火シャッターと防火扉の対応については、正しい行動である「防火扉を開けて避難経路を通った」という回答が4分の1の生徒しかおらず、「防火扉や防火シャッターがあるため別の避難経路に行った」という回答が多かった。これは、火災の際の避難で防災扉の開け方を理解していなかったことが原因だと考えられる。机の下での潜り方同様、正しい防災知識を広めていく必要があると感じた。

Googleフォームのアンケートより、そもそも事前指導動画を視聴していなかった人が多かったため、正しい知識を身に付けないまま避難訓練を行った生徒が多かった印象を受けた。実際に災害が起こったときに備えて実践的な避難訓練の前に防災知識を広める工夫をしていく必要があると考えられる。また、事後アンケートの避難訓練について「抜き打ち避難訓練を行いたい」や「事前連絡なしで行いたい」という意見が多数あり、生徒の意見も聞きながらより主体性を高められるような避難訓練を考案していくことが重要だと感じた。

(v)事前指導動画改正版の制作

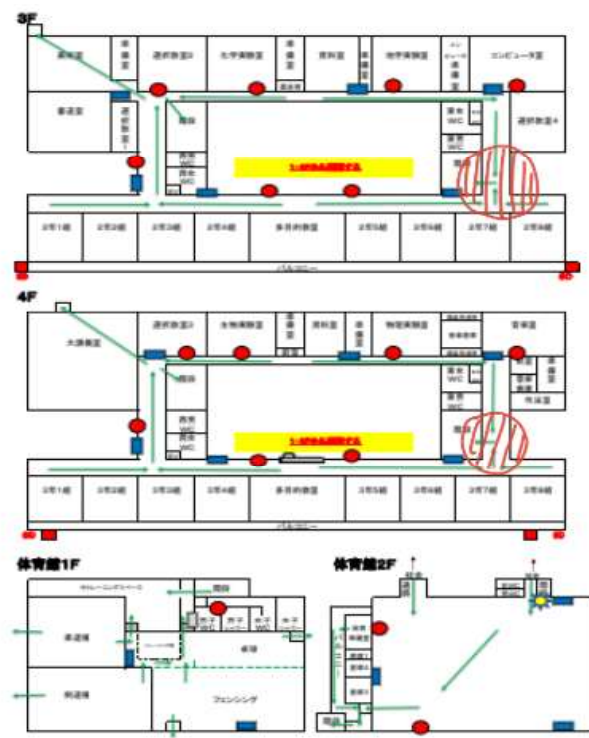
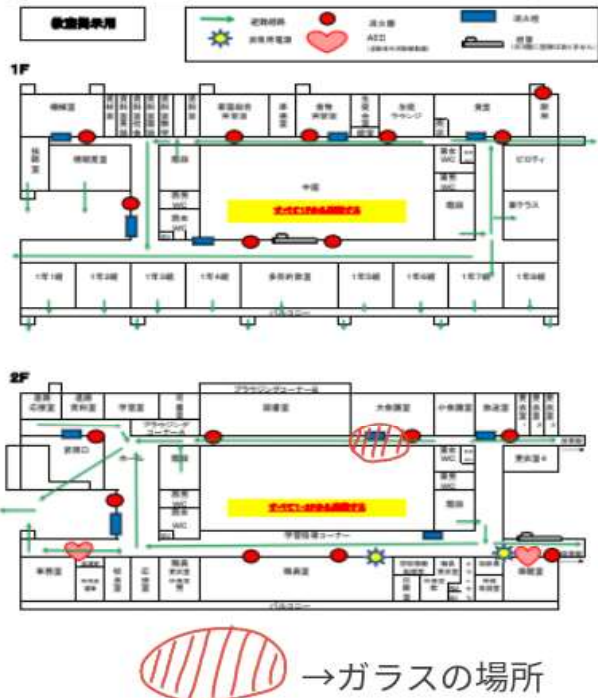
令和5年度後期避難訓練前に制作した動画の内容に加え、さらに避難経路に障害物があったときの対処法など、以前の動画よりも多くの学びを得られるように改正版を作成した。避難訓練までに動画の視聴をしていない生徒が多いという前年度の反省を活かし、各クラスのSHRの時間内で動画を流してもらうという案が出たが、防災主任の先生から各クラスで動画を流す時間をとることはできないと意見があったので、断念する結果となる。その代替として、各クラスの担任の先生から全校生徒クラスルームにアップロードされている動画を視聴するようにと呼びかけを行ってもらった。

(vi)令和6年度前期避難訓練について

①前期避難訓練の企画

令和5年度後期避難訓練を受けて、避難訓練の実施を午前中にしたり、煙発生装置を取り入れた避難訓練を行ったり、避難経路を各クラスの数名のグループで考えるワークショップを行ったりと様々な案を考えたが、全校一斉にそのような防災教育を行える時間が限られているため、実行するのは厳しいという判断に至った。そこで、前期避難訓練では、生徒たちの変化を見るために、反省点を活かしつつ基本的に前年度後期避難訓練で行った内容と同じ訓練内容を行おうと考えた。なお、本校の避難訓練では、前期で地震のみの想定で避難訓練を行うので、防火扉・防火シャッターの閉鎖は前期避難訓練では取り入れなかった。前年度後期避難訓練の内容から加えたものとして、今回初めて探究を進めていく中で駐車場を避難場所としたことと、割れた窓ガラスに見せかけたペットボトルの破片の散布場所を2箇所増やして、計3箇所に障害物として設置したことである。以前は、3階東側廊下だけに撒いていたものを、大講義室前の窓ガラス前と4階東側廊下にも散布し、生徒の対処法を確認できるようにした。(資料3)

避難経路及び救急・消火器具の設置場所



資料3 割れた窓ガラスに見せかけたペットボトルの破片の散布場所(令和6年度前期避難訓練)

②前期避難訓練の実施・撮影(図3)

全校生徒一斉に授業を1時間分使って避難訓練を行う。

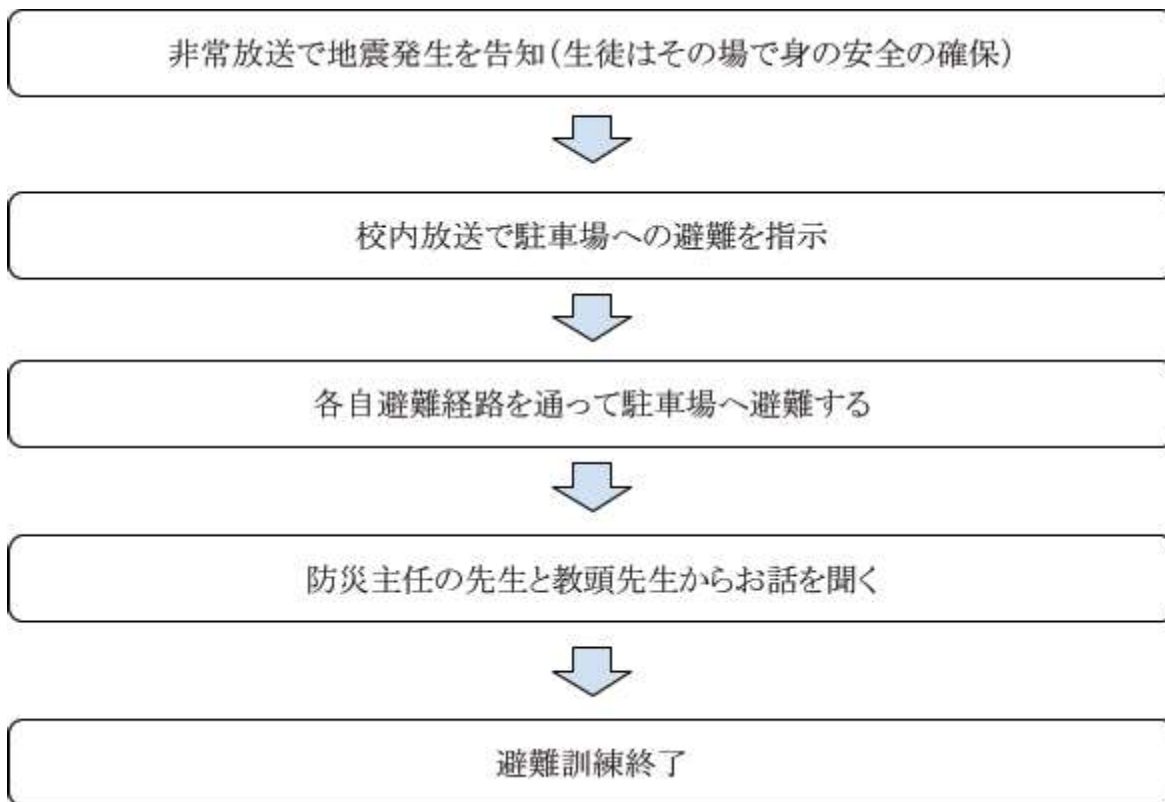


図3 令和6年度前期避難訓練の流れ

令和5年度後期避難訓練と比較するため、ipadの設置場所は以前と同様にする。(資料2)

③前期避難訓練の結果分析・考察

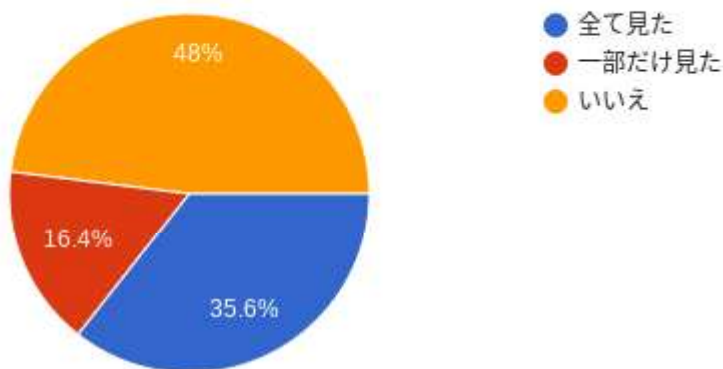
まず良かった点として挙げられるのは、多くの生徒が焦ることなく、避難経路を通って避難する様子が見られたことである。また非常放送の音が聞こえやすいように改善され、以前の避難訓練と比較すると緊迫感が増し私語が減ったと感じられる。

しかし、改善点として挙げられるのは、多くの生徒が焦って移動していない反面、避難場所に集合する時間が少し遅くなってしまったことや、担任の先生が指示をするような形で避難を行っていたクラスが見受けられたことである。また、障害物として用意した割れたガラスに見せかけたペットボトルの欠片の散布場所では、一部まだ走ったりふざけたりする人や私語が多い人がいた。以前と比べると正しい行動をとる人が多くなっている印象を受けるが、一部で避難訓練に真剣に取り組んでいる生徒がいるのも事実である。

④前期避難訓練の事後アンケートの実施

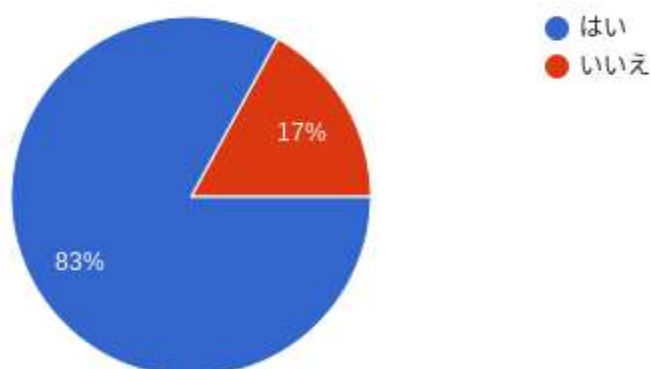
前年度後期避難訓練と同様に、前期避難訓練の振り返りとして全校生徒を対象にGoogleフォームで前期避難訓練のアンケートをとった。全校生徒のクラスルームにリンクを貼って担任の先生からも入力を促していただいたことで計691件の回答を得ることができた。(グラフ17~)

691 件の回答



グラフ17 クラスルームに投稿された事前指導動画を確認したか(令和6年度前期避難訓練)

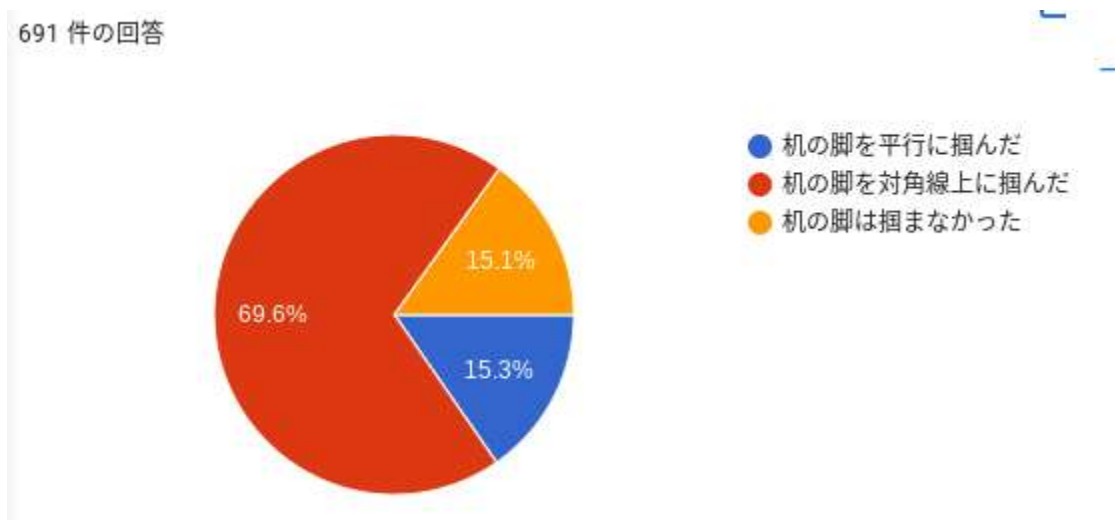
359 件の回答



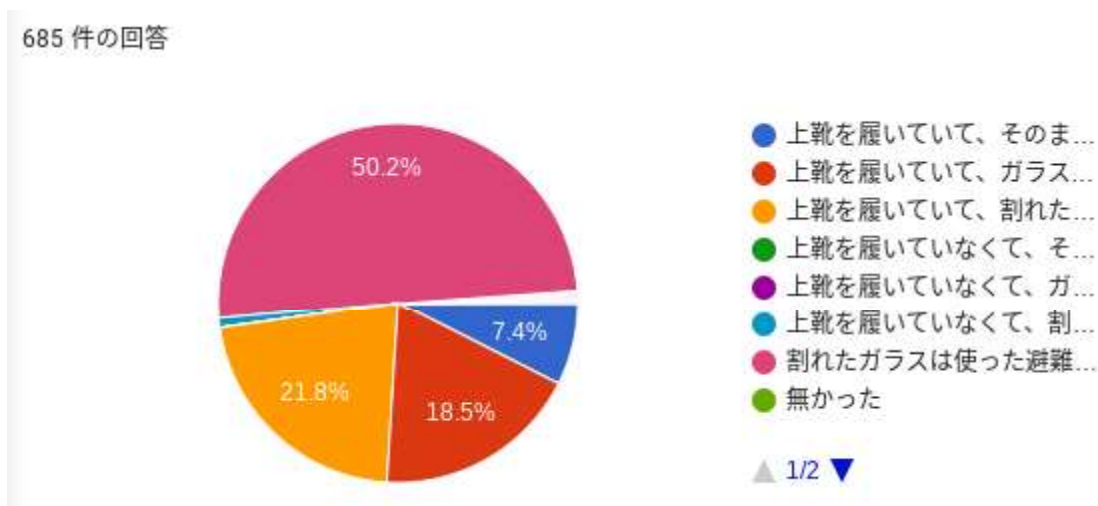
グラフ18 動画の内容を参考にして地震発生時から避難完了まで行動することができたか(グラフ17の質問で「全て見た」と回答した人のみ)

以前の事前指導動画の視聴数が少なかったという反省を活かし、担任の先生による呼びかけが功を奏したのか事前指導動画を「全て見た」と回答した割合が圧倒的に増加したことがわかる(グラフ17)。また、この事前指

導動画が参考になったと回答した生徒も多く(グラフ18)、後期避難訓練のときよりも多くの人が正しい防災知識を身につけ、実際に自分自身で正しい行動の実践を行うことができたと考えられる。

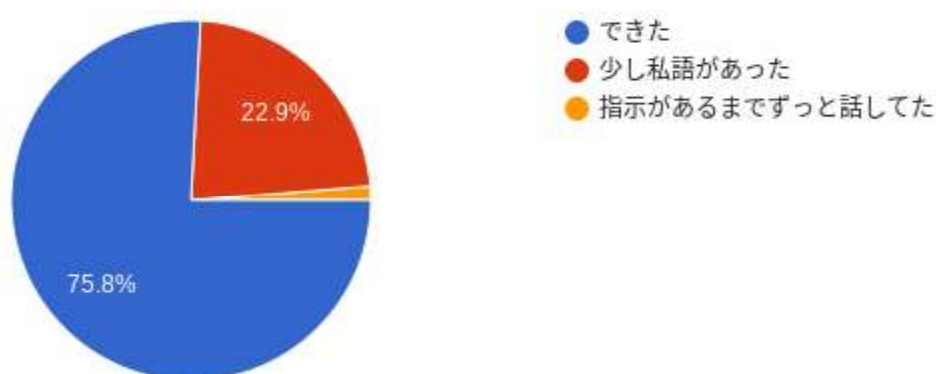


グラフ19 机の足を押さえたか(令和6年度前期避難訓練)



グラフ20 割れたガラスがある場所を通るとき、どのように対応したか(令和6年度前期避難訓練)

机の足の押さえ方について、事前指導動画をきちんと確認した人が多かったからか、約7割の人が「机の足を対角線上に掴んだ」と回答し、正しい行動をとっていることが読み取れる。令和5年度後期避難訓練では、間違った行動をとっている人の割合が大きかったが、生徒が徐々に正しい防災知識を身につけていると考えられる。また、割れたガラスがある場所を通る時の対応として、事前指導動画内で正しいとされている「上靴を履いていて、そのままガラスの上を歩いた」という生徒も見受けられてしっかりと動画の知識を活かしていることがわかる。しかし、前回同様、「割れたガラスは使った避難経路に無かった」という意見が半数を占めているので全校生徒が実践できるような方法に工夫をしていく必要があると感じる。



グラフ21 避難完了後、速やかに整列し指示を待つことができたか

私語の意識について、令和5年度前期避難訓練と比較しても、大幅に減ったと感じられる。しかし、やはりまだ4分の1の生徒が私語があると自覚しており、避難訓練の内容の改善とともに、避難訓練中の私語も減っていくだろうと考えられる。

前期避難訓練の事後アンケートと、前年度の後期避難訓練の事後アンケートの結果を比較してもわかるように、事前指導動画によって多くの生徒が正しい知識を持って避難訓練を実施することができたといえる。

IV. 考察

(i) 班としての考察

私たちの班では、Ⅲの探究内容で記したように、普段の避難訓練でも非常放送の音が聞こえづらかったり話し声が絶えなかったりとたくさんの改善点が見つかった。その改善点の中で、共通して挙げられる原因は、緊迫感・緊張感が感じられず生徒が主体的に動ける状況になっていないということである。私たちが考案した避難訓練と事前指導動画を生徒がどう捉えたかなどの結果分析から、効果のあった避難訓練の内容とさらに改善できる内容を追加した避難訓練案を提案する(図4)。

まず、通常の避難訓練では授業中に行うが、いつ起こるかわからない災害に備え、休み時間に非常放送を鳴らす。そして、正しい防災知識の実践のために、防火扉の閉鎖と障害物(割れたガラスに見せかけたペットボトルの欠片)の設置を行い、生徒たちが主体的に考えられる状況を作る。実際に避難する際には、危険な場所を避けて適切な避難経路を選べるか、生徒たちが一つの経路に固まらずに主体的に考え行動できるかなど、基準をもって振り返りを行えるように工夫することが重要である。また、私たち探究班が企画することができなかった様々なケースを想定した避難訓練も主体性を育成する避難訓練として良くなると考えられる。今後、本校の避難訓練をより良いものにしていくためにも、この探究内容を引き継いでいきたい。

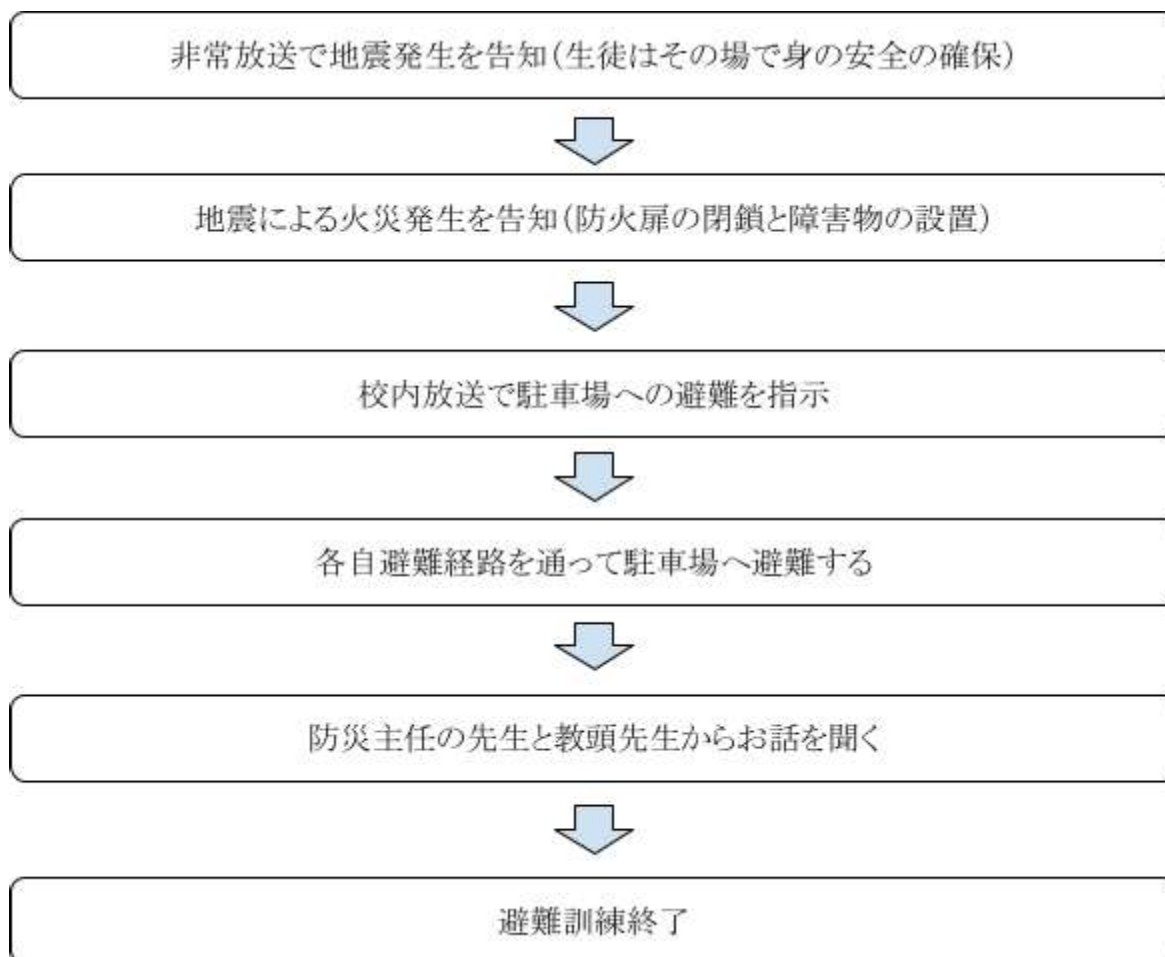


図4 主体性を育成する避難訓練案の流れ

(ii)個人の考察

約2年間の探究活動を通して、防災教育の一貫として行われている避難訓練にこんなにもたくさんの改善点があることを改めて知った。緊迫感のある避難訓練を行うために、非常放送の音を大きくしたりその他様々な状況で行う避難訓練案を考えていたが、学校の授業の時間内に行うことができないと断られることもあり、避難訓練の運営や企画に関しては探究班内や防災主任の先生と多くの話し合いを行った。例えば、過去に災害の非常放送の音がトラウマとなっている生徒がいた場合や障がいをもつ生徒がいた場合など、予期しない避難訓練でその生徒が何らかのパニックを起こし、そもそも避難訓練が成り立たない可能性も考えられるのである。避難訓練は生徒が安全に訓練として行うことが前提になっており、その前提の上で避難訓練を行おうとすると、どうしても生徒にとっては緊迫感のない避難訓練になってしまう。なかなか緊迫感のある状況を作ることが厳しい中で主体性を育成する避難訓練案を考えることは難しかったが、令和5年度前期避難訓練から比較すると、多少かもしれないが、生徒の意識を変えるような避難訓練を行うことができたのではないかと感じる。緊迫感のある状況を作り出すことは難しくても、生徒が主体的に考えなければいけない状況を避難訓練の中に組み込むことで、実際に災害がおきたとしても自分自身で判断し臨機応変に対応することができるのだと考える。

V. おわりに

まず最初に私たちの探究活動のために、避難訓練案について話し合いをしてくださった、防災主任の保志先生や小幡先生、教頭先生、本当にありがとうございました。私たちの探究活動に真剣に向き合ってください、できる範囲で私たちが研究したかった避難訓練の内容の実施に尽力してくださいました。さらに、各学年の担任の先生や養護教諭の先生方にも本当にたくさんのご協力をいただきました。私たちの探究活動に快くご協力をしてくださいました先生方、生徒の皆様に感謝いたします。ここに誠意の意を表します。

参考資料

事前指導動画

<https://drive.google.com/file/d/191k7pwrB1aufO0V5QLuFvePMhx0mtivK/view?usp=sharing>

事前指導動画改訂版

<https://www.youtube.com/watch?v=XOonVdENHsA&authuser=0>

参考文献

2024年6月5日河北新聞p.20「生徒ら避難の手順確認」河北新報社

2021年公開「主体性とは？自主性との違いや発揮するための3つの要素とは」ALLDIFFERENT

https://www.learningagency.co.jp/column_report/column/hrd_column_92.html

2007年 文部科学省公式サイト「4.現在の防災教育における課題」文部科学省

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kaihatu/006/shiryo/attach/1367196.htm

2014年「防災教育モデル実践事業 防災教育実践事例集」大分県教育委員会

<https://anzenkyouiku.mext.go.jp/todoufuken/data/44oita/44-03/44-03-1.pdf>

2009年「みんなで減災 特集 防災教育」内閣府 防災情報のページ

https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h21/01/special_01.html#container